

食品衛生ニュース

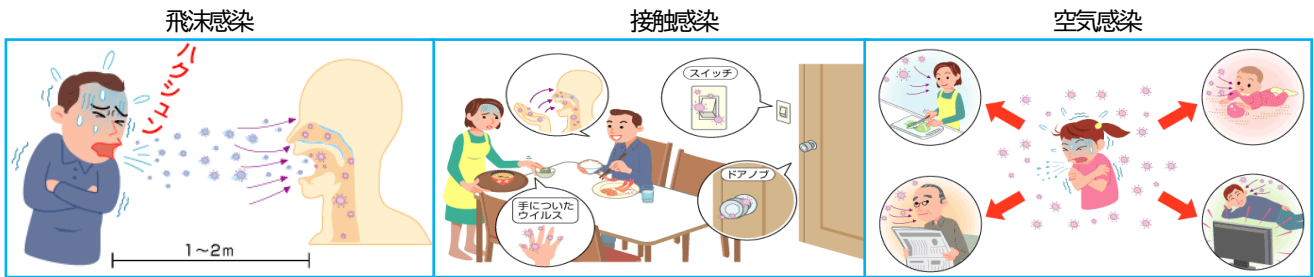
【通巻5号(第1巻4号)】
2019年10月

インフルエンザにも注意しましょう

まもなくウイルスの生存にとっては好適な低温、乾燥状態が続く冬の季節を迎えます。食品に関わる皆様には感染性胃腸炎や食中毒を起こすノロウイルスやロタウイルス、サポウイルスが最も重要ですが、今回はウイルスが原因であっても呼吸器系で諸症状を起こすインフルエンザウイルスについてお話しします。皆様のまわり(ご家族、ご友人)でも過去に感染した人がいたかと思います。例年の感染者数は、国内で推定約1,000万人いると言われています。ノロウイルス等と同様ことても感染力が強く、例年11月頃から流行が始まり1月から3月にかけては発生のピークを迎える病気です。食品に関わる皆様をはじめ、ご家族がインフルエンザに罹らなくて済む健康な身体でこの冬を乗り切りましょう。

☞ インフルエンザとは

インフルエンザウイルスがノドや気管支、肺で感染、増殖することで起きる呼吸器の病気です。感染経路ですが、一般的に図に示した飛沫感染、接触感染、そして空気感染の3つに分けることができます。



(資料:大幸薬品株)

潜伏期は1~4日で急激に以下のような諸症状が起き、1週間程度で回復します。
[高熱:38~40℃、頭痛、関節痛、筋肉痛、咳やノドの痛み、鼻水など]

☞ 罹ってしまった時の対処法

インフルエンザかなと思われる時は、普段の風邪だとは判断しないで早めに医療機関に受診し、十分に休養を取るようにしましょう。早めに治療し休養することは他の人にインフルエンザをうつさないという意味でも重要です。

- 安静にして十分に休養を取る、特に睡眠が重要。
- 部屋の温度や湿度を適切に保つ(気温18~20℃ 湿度50~60%程度)。
- 水分を十分に補給する(お茶、ジュース、スープ類等)。



☞ 感染を拡げないための対策をしましょう

インフルエンザは、感染している人のセキ、クシャミや会話時に空気中に拡散されたウイルスを100~1,000個以上、鼻腔や気道に吸引することで感染が成り立ちます。また吊り革やドアノブに付着したウイルスを手指等の接触で鼻や口等の粘膜を通じての感染もあります。これらの消毒については消毒用アルコールが十分に有効です。

☞ 予防法は、ワクチン接種が一般的に知られています

特に高齢者の方では重症化を防ぐためにも有効ですが、ワクチンの効果は4か月間程度です。毎年、流行シーズンを迎える前には接種しましょう。また日々、手洗い、うがいの励行や外出時にはマスクの装着にも努めたいものです。

登録衛生検査所
株式会社 **中央微生物検査所**
環境サービス事業部

本社
〒536-0008 大阪市城東区関目5丁目22番23号
TEL.(06)6939-1044
FAX.06-6939-2350

<http://www.chubi.co.jp/>
E-mail shoku@chubi.co.jp

東京営業所
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番10号コスモタワービル10階
TEL.(03)5472-7551
FAX.03-5472-7552